

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	生活援助技術 I (休息・安楽)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	10 時間(単位)
対象学年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	202、203、実習室
担当教員	藤澤真由美	実務経験とその関連資格	看護師・・・ 総合病院病棟勤務、小児救急外来で勤務 看護教員・・・5年一貫看護学校教員,看護短期大学			
<b>《科目目標》</b> 1. 日常生活行動の援助を受ける主体である患者について理解することができる。 2. 科学的根拠に基づき、安全・安楽に看護技術を提供するための基本的知識(原理・原則)を習得することができる。 3. 看護における基本的な援助の技術・態度を習得することができる。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> 【評価方法】課題20%、理解度テスト20%、ロールプレイ発表20%、終講試験40%、 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ20巻 基礎看護技術II 看護実践のための援助技術 メディカ出版 参考:看護技術プラクティス 学研 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院						
<b>《授業外における学習方法》</b> ①事前・事後学習を行い授業に出席する。 ②指示している動画を視聴して出席する。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> ①提出物は、クラス単位で回収し指定した時間を守り提出する。 ②グループワークや意見交換は時間を有効に積極的に行う。 ③安全、安楽な援助を実施できるように自己で技術の向上に努める。 ④言える、書ける、行動できるよう主体的学習姿勢で臨む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.休息・睡眠の意義とメカニズムを説明できる 2. 休息・睡眠のニードをアセスメントできる 3. 休息・睡眠を促すために必要な援助を述べるができる	テキスト 学習プリント	事前に指定されたテキストの個所を読み、わからない単語は調べておく	
		各コマにおける授業予定	P22～26、P240～254 「日常生活行動の援助技術」において学ぶこと、看護技術を支える「看護の基本的機能」、休息・睡眠を促す技術			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 安楽および苦痛の概念を説明することができる 2. 安楽を確保する技術・方法を挙げ、それぞれの適応や効果を述べるができる	テキスト 学習プリント	事前に指定されたテキストの個所を読み、わからない単語は調べておく	
		各コマにおける授業予定	P62～82 安楽を確保する方法 リラクゼーション、痛みの緩和、かゆみの緩和、感覚への刺激			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. 安楽を確保する技術について、安楽かつ快適さを確保する要素は何かを理解し、適切に援助することができる。 2. 行った援助を客観的に振り返ることができる。	テキスト 学習プリント リフレクション用紙 iPad	動画を用いた振り返りを行う。事前課題、事後課題。	
		各コマにおける授業予定	P62～82 安楽を確保する方法 リラクゼーション、痛みの緩和、かゆみの緩和、感覚への刺激			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 体温調節の生理学的メカニズムを理解することができる。 2. 寒冷・温熱刺激が生体に及ぼす影響(生理的反応)を理解することができる。	テキスト 学習プリント	事前に指定されたテキストの個所を読み、わからない単語は調べておく	
		各コマにおける授業予定	P315～330 電法とは、温電法、冷電法			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. 患者の安全・安楽を前提に、効果的・効率的な電法の援助方法を習得することができる。 P323～330	テキスト 学習プリント リフレクション用紙 iPad	学習課題をまとめ、最終提出する	
		各コマにおける授業予定	温電法、冷電法の演習 ※看護実習室			